

# 6

## 過年度参加者コラム



圃場での一コマ

過年度  
参加者は

今?

2024年度ウガンダ教師海外研修参加者のみなさんに、ウガンダでの研修を経て今思っていること、研修後の変化、継続している学校での実践の状況、などを伺いました。



北平 浩美さん

栃木県立富屋特別支援学校/特別支援/中学部2年生



音楽の「世界の音楽」では、アメリカのジャズ、インドネシアのケチャ、アフリカの楽器であるカリンバの曲など様々な国の音楽を鑑賞しました。今年度本研修参加者の遠藤いさみ先生の授業実践と同時期に実施したことで、生徒も意欲的に学習に参加し、「初めて聴いた」「日本と違う」などの感想を発表する様子が見られました。

ALTに食べ物や気候など生徒にとって身近なテーマで、出身国を紹介していただきました。生徒たちはアイルランドと日本の共通点があることに気づき、ALTへの質問コーナーでは「日本の〇〇はアイルランドにもありますか？」の質問があがるなど、世界への関心を高めるとともに、世界を身近に感じるきっかけになりました。



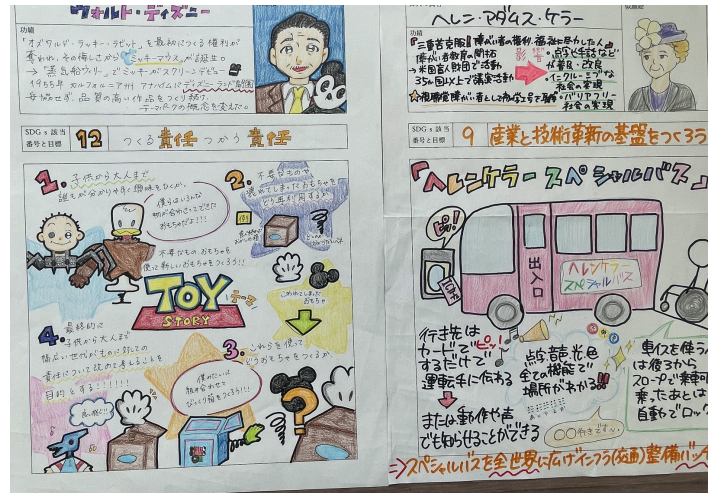
後藤 千春さん

栃木県立足利南高等学校/地歴・公民科



『地理総合』の授業では、コーヒーメーカーさんからの教材提供を受け、「人と世界を結ぶコーヒー物語」というテーマでアフリカのコーヒーに関する授業を実践しました。授業の最後はメーカーさんからいただいた缶コーヒーを飲みながら生徒たちとアフリカに関するトークで盛り上がりました。

『偉人研究』の授業では、今年も「歴史上の偉人が現代の世でSDGsに挑戦したら・・・」という探究活動を行いました。生徒達の豊かな発想にはいつも驚かされると同時に、笑いや元気をもらいます。未来は明るい！！



『地域研究』の授業では、足利市と官学連携で「文化財特別公開」を開催しました。学校近くの「あがた駅南遺跡」について生徒たちが調べ、出土品と共に解説を行いました。外国の方向けに英訳の解説も作成しました。世界を知ることは、まず地元を知ることから、この考えはウガンダに行く前から変わりません。

1月には安足地区ふれあい学習ネットワークで「子どもとつくり地域の未来 今からできる地域活動サポート」というテーマで地域研究の実践を発表させていただき予定です。今後も地域を愛し、地域に貢献できる生徒を育てていきたいです。地域理解が深まることで、その後、世界へ目を向けていくことに繋がっていくと信じて。



令和7(2025)年度

### 安足地区ふれあい学習ネットワーク

◆会場 あしががフラワーパークプラザ(足利市民プラザ) 小ホール  
足利市朝倉町 264 Tel. 0284-72-8511

◆内容

時間	12:45~	13:15~	13:30~	13:45~	14:25~	16:20~	
内容	受付	開会 行事	・趣旨説明 ・リポート報告	【事例発表】 高等学校の 活動事例 ※高校生や先生に発表し ていただく予定です。	休憩	【講話・グループ協議】 「子どもや若者が地域で 活躍するために」 ※途中休憩が入ります。 ※グループ協議に高校生が参加します。	閉会 行事



## 増田 萌さん

栃木県立佐野高等学校/保健体育科



この研修を通して、アフリカ、ウガンダは遠い世界ではなく、日常とつながる存在になりました。研修後、授業中、生徒とのやりとりの中で、アフリカ、ウガンダというワードが出るたびに生徒が反応してくれて、アフリカに関することへの関心が高まったように感じます。また、支援する側・される側という単純な関係ではなく、同じ世界に生きる一人ひとりとして向き合えた経験は、自分にとって大きな財産だったと感じています。全ての出会いに感謝します。



## 内山 俊太さん

北茨城市立精華小学校/5年生担任



あしながウガンダでの写真。国や文化、境遇は違えど、子どもの笑顔は万国共通だと感じた。本当に楽しそうで癒された。



車が通るすぐそばでフルーツ？を売っていたり、ノーヘルでバイクに2人乗りしていたり、日本では見られない光景に衝撃を受けていた。でもこれが日常と考えると、みんな頑張って生計立てているのは一緒だし、誰かの役に立とうとしていることも一緒だと感じた。



ウガンダと日本の、違いや共通点についてアイデアをグループごとにまとめた。生徒たちが楽しみながら積極的に考えている様子を見て、もっと自分が体験したことを伝え続けたいと感じた。「知る」ことから国際理解が始まると思うので、活動を続けたい。



## 小川 知美さん

守谷市立けやき台中学校/英語科/中学3年生

授業で途上国について考える時間を取りました。最後のまとめとして、「国をこえて助け合う大切さを知り、自分にできることについて考えよう」という内容で、生徒たちは英作文を書きました。世界の現状を知ること、そしてそれを伝えること、相手を思いやることなど、今の自分ができることをじっくり考えていました。



インドの日本人学校に通う生徒とオンラインで交流しました。日本以外で暮らす、同年代の生徒と話すことで、今まで以上に海外に興味をもち、途上国に対するイメージがポジティブなものに変わってきたように思います。「行ってみたい!」と声にする生徒もいました。



## 牧之段 はるかさん

茨城県立牛久栄進高等学校/国語科/3年生



### 困難な状況への理解と支援

NPO法人と協力してケニアの母親支援のための物品販売を行ったり、小児がん支援のレモネードスタンドを行ったり、日本赤十字社主催のタイユースメンバーとの交流やバングラデシュ難民の研修に参加したりしました。地域の福祉施設と協働する企画も随時実施しています。

## 有事への支援

ウクライナ支援のチャリティーコンサートを探究活動の一環として行いました。また、能登高校の生徒が製作したクッキーを校内外で販売し、売り上げを能登復興支援にあてています。また、震災の被災地に実際に赴き支援活動をする活動も行いました。  
(能登2回、東北1回)



教師海外研修のおかげで校務分掌が探究活動推進部に、部活動もJRC部の顧問になり、活動や実践がやりやすくなりました。「世界を考えることは、自分を考えることの延長。世界平和は、友達や家族と仲良くすることの延長。」というメッセージを、これからも様々な実践を通して伝え続けていきたいです。



## 堀内 雅人さん

JICA海外協力隊（ベナン/野菜栽培）  
研修参加当時…茨城県立水戸農業高等学校

研修後の翌年度から休職し、現在はJICA海外協力隊としてベナンの職業訓練校で野菜栽培の指導にあたっています。現地の農業や文化について、生徒や先生たちから学ぶ毎日で、新しい発見を楽しみながら活動に取り組んでいます。



生徒たちは、畑での作業を通してより実践的に学んでいます。卒業後を見据えて、現地の教員と協力しながら、時間を守ることや服装など、社会に出て必要となる基本的な姿勢も大切に指導しています。農業を通して、生徒たち一人ひとりの協力する力や責任感を育み、人として成長する場となっています。



## 野口 孝之さん

茨城県立取手松陽高等学校/英語科/1年生

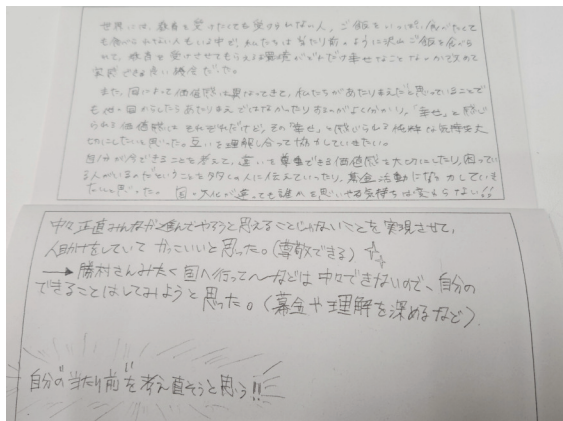
※2015年教師海外研修(ウガンダ)参加者/2024年度JICA筑波教員インターン・教師海外研修同行者



企業等長期社会体験研修でJICA筑波連携推進課に一年間お世話になった後、4月に学校現場に復帰し、1年担任、進路指導部、地球市民教育推進副室長として、様々な立場から生徒の興味関心を広げようと無理のない形で試行錯誤しています。教室、進路室にウガンダやJICAのものをこっそり置き始めています。



ブラジル日系研修員、ブラジル人学校エスコラ・オプションの学校見学を受け入れました。二日に分けて、陸上部部活動、学校行事(クラスマッチ)を視察し、生徒と交流セッションも行い、お互いに有意義な時間となりました。将来的に、双方の生徒が直接またはオンライン等の形で交流する機会をもてればと考えています。



国際協力推進員の勝村さんに、1学年全生徒にルワンダでの協力隊体験談を話してもらいました。勝村さんの想い溢れるお話に、生徒たちからは質問、感想、応援メッセージ等、予想以上に多様な反応がありました。次年度以降もJICA筑波と連携し、三年間かけて生徒と共に世界について学ぶ機会を作っていく予定です。



近隣日本語学校の留学生と国際交流を行いました。様々な国からの留学生が来校し、母国やお勧めのものを紹介合いました。どの生徒も交流が楽しく、気づきがあったと話しています。卒業までに、英語と政治経済でコラボし、JICA筑波の研修員と英語での交流・インタビューする探究をしようとして三年スパンで構想しています。

